

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都府知事 報告者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府綾部市下八田町下沢27番地の1	2014年9月29日 報告者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) 株式会社 関西丸和ロジスティクス 代表取締役 田中 文和
--	---

主たる業種	一般貨物運送取扱事業					細分類番号 4 4 1 1	
事業者の区分	<input type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号						
計画期間	平成23年4月から平成26年3月まで						
基本方針	①輸送安全マネジメントの推進 ②SD戦に従事した従業員への年度内2回の事故防止研修会の実施 ③グループ会社と協力した「省エネルギー」使用合理化						
計画を推進するための体制	事業部長・部門長及び安全車両課が中心となり進めている輸送安全委員会にて推進を行っている						
温室効果ガスの排出量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (20~22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	8,598.4トン	7,649.2トン	7,214.5トン	6,339.9トン	-17.8 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	8,139.0トン	7,649.2トン	7,214.5トン	6,339.9トン	-13.2 パーセント	
	実績に対する自己評価	業務効率と法令遵守に向け、他社への業務委託を行った為、稼働率が減少した事					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	増減率
	輸送車両	事業活動に伴う排出の量 (総走行距離)	3.75	2.48	2.31	2.34	-36.62 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ()					パーセント
	実績に対する自己評価	車両稼働率が減少したもののガス使用量に対して適せん阿走行距離を保てなかった					
	重点的に実施する取組の実施状況	基準年度 (22)年度	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	備考	
		0.0 パーセント	33.0 パーセント	33.0 パーセント	41.0 パーセント		
具体的な取組及び措置の内容	(23)年度	社内研修会によるエコドライブ運転の知識向上など					
	(24)年度	配送ルートの見直しによる輸送効率化					
	(25)年度	輸送車両等の社内車両管理の徹底					
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	社有車を有効活用し、自家用車両の抑制を図った					
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	輸送車両外での自家用車使用が減少しました					
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区分	第1年度 (23)年度	第2年度 (24)年度	第3年度 (25)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	トン	トン	トン			
	地域産木材の利用によるもの	トン	トン	トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	トン	トン	トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	トン	トン	トン			
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	トン	トン	トン			
	合計	0.0トン	0.0トン	0.0トン			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動							
特記事項							

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。

3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。

4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。

5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。